

2020
10

Celebrate Beethoven's 250th Birthday





©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
ホールに満ちるオーケストラの響きを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

第944回サントリー定期シリーズ

終演予定 20:45

10.19(月) 19:00 開演 サントリーホール 大ホール

第137回 東京オペラシティ定期シリーズ

終演予定 20:45

10.22(木) 19:00 開演 東京オペラシティ コンサートホール

第945回オーチャード定期演奏会

終演予定 16:45

10.25(日) 15:00 開演 **Bunkamura** オーチャードホール

指揮: チョン・ミン

ヴァイオリン: 服部百音*

コンサートマスター: 三浦章宏

10/19

10/22

10/25

ベートーヴェン: ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op. 61* (約45分)

- I. アレグロ・マ・ノン・トロップ
- II. ラルゲット
- III. ロンド: アレグロ

ー 休憩 (約15分) ー

ベートーヴェン: 交響曲第5番 八短調 Op. 67『運命』(約35分)

- I. アレグロ・コン・プリオ
- II. アンダンテ・コン・モート
- III. スケルツォ: アレグロ
- IV. アレグロ

主催: 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

共催: 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団(10/22)

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) |

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: **Bunkamura** (10/25)



※当初の発表から指揮者・一部の曲目が変更となっております。

※本公演に限り演奏中や曲間・楽章間での入退場を可能といたします。体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※再入場・途中入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※お帰りの際には、お手数ですがお手元の入場券はがきに<ご来場者様のご氏名・住所・電話連絡先>をご記入の上、ロビーの回収ボックスに投函してお帰りください。ご協力をお願い申し上げます。

出演者プロフィール

指揮

チョン・ミン

Min Chung, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 アソシエイト・コンダクター



ドイツのザールブリュッケン生まれ。ソウル国立大学校にてドイツ文学とヴァイオリンを専攻した。

2007年、釜山のアロシウス・オーケストラを指揮してデビュー。日本では九州交響楽団、千葉県少年少女オーケストラ、洗足学園管弦楽団、アクロス・ユース・オーケストラ、多摩ユース・オーケストラ等と共演。

2013年10月に東京フィルハーモニー交響楽団デビュー。その後も、相模原市民会館や新宿文化センターでの「第九」や「題名のない音楽会」のテレビ放映にて共演。2015年4月より、同団のアソシエイト・コンダクターに就任。2019年6月、尾高忠明の代役として東京フィル定期にデビュー。

2014年11月、ウィーン室内管弦楽団を指揮しウィーン・デビュー。イタリア交響楽団（ボルツァーノ＝トレント・ハイドン管弦楽団）やパドヴァ・ヴェネト管弦楽団の指揮など、各地で好評を博す。2019年6月、イタリア交響楽団の来日公演を大成功させる。2019年9月にはベトナム国立交響楽団定期公演にデビュー、喝采を浴びる。

オペラにも精通しており、韓国国立オペラで『子供と呪文』『蝶々夫人』『ドン・カルロ』を指揮。2013年にボリテアーマ・グレート歌劇場で『椿姫』を指揮してヨーロッパ・デビュー。ミラノ・スカラ座、マリインスキー歌劇場、テアトロ・マッシモにも登壇している。

10/19

10/22

10/25

ヴァイオリン

服部百音

Moné Hattori, violin



©Chihako Ishii

1999年生まれ。5歳よりヴァイオリンを始め、8歳でオーケストラと初共演。2009年リプンスキ・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクールのジュニア部門で史上最年少第1位及び特別賞。2013年ヤング・ヴィルトゥオーゾ国際ヴァイオリン・コンクールのジュニア部門でグランプリ、特別賞。ノヴォシビルスク国際ヴァイオリン・コンクールにおいて、特別にシニア部門参加を認められ、最年少グランプリを受賞。2015年にはボリス・ゴールドシュタイン国際ヴァイオリン・コンクールでグランプリを受賞。2016年デビューCD『ショスタコーヴィチ：ヴァイオリン協奏曲第1番、ワックスマン：カルメン幻想曲』を発表。2017年第27回新日鉄住金音楽賞《フレッシュアーティスト賞》、岩谷時子《Foundation for Youth》、2018年第5回アリオン桐朋音楽賞、第1回服部真二音楽賞、2020年第21回ホテルオークラ音楽賞、第30回出光音楽賞を受賞。国内外の指揮者、有名オーケストラと共演を果たしている。現在、ザハール・ブロン・アカデミーに在籍、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースに在学中。2019年度ロームミュージックファンデーション奨学生。

楽曲紹介

解説=船木篤也

ベートーヴェン (1770-1827)

ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op. 61

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770-1827) がこの曲を書いたのは、1806年の終わりごろ。本拠地を故郷のボンからウィーンに移して(きっかけはハイデンへの弟子入り)、この間14年が経過。交響曲、ピアノ協奏曲ともにすでに第4番までが書かれ、唯一のオペラ『レオノーレ』(のちに『フィデリオ』と改名)も、その第2稿までが上演されていた。ときに36歳。いわゆる「傑作の森」の時期にあたり、本作をベートーヴェンは、ヴァイオリンの名手、フランツ・クレメントのために書いたのだった。

ところが、1806年12月23日にウィーンで行われた初演の批評には、否定的なコメントもみられる。「幾つかの陳腐なパッセージが延々と繰り返される」というのだ。いっぽう、その38年後に、のちに高名なヴァイオリニストとなるヨーゼフ・ヨアヒム(当時まだ12歳!)がメンデルスゾーンの指揮で演奏すると、本作はたちまち名作の地位を獲得。これはどういうことだろうか?

第1楽章 冒頭でティンパニが静かに等間隔で叩く「タン・タン・タン・タン」のリズムに注目しよう。これはこのあと、オーケストラが至る所で鳴らし、これを細分化した「タカタカ・タカタカ・タン・タン」も頻出する。本楽章はこの「基本脈動」の反復・活用と、幸福感にみちた歌との交差から成っており、こうした独自のコンセプトが、19世紀の初頭にはまだ新し過ぎたのかもしれない。

第2楽章 ここでもベートーヴェンは、協奏曲といえば常に独奏者が主役という「常識」から一歩踏み出している。主役はむしろ管楽器で、ヴァイオリンはまず、その装飾役に回る。そしてしかるのちに歌い出すのだ。

第3楽章 とつぜん速度を上げ、舞曲風に弾み出したら、そこからが第3楽章。舞曲は、意気揚々、たびたび戻ってくる(ロンド形式)が、途中短調の暗い陰がさすあたりでは、センチメンタルな表情もヴァイオリンから漏れてくる。これもまたベートーヴェンの一面であろう。

【作曲年代】1806年 【初演】1806年12月23日 ウィーンのアン・デア・ウィーン劇場にて。
フランツ・クレメントの独奏による

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部、独奏ヴァイオリン

ベートーヴェン (1770-1827)

交響曲第5番 八短調 Op. 67『運命』

運命はこのように戸を叩く——この曲の頭の有名な「タタタ・ター」という動機を指してベートーヴェンがそう言ったと伝えるのは、自称作曲者の弟子、アントン・シントラーである。「運命」という通称も元はといえばここに発している。話を改ざんする癖のあった人で、現在ではすっかり信用を失っているが、ここでいう「戸」が「玄関のドア」でないことは確認しておきたい。原語はPforte。「天国の扉」といったイメージもあるドイツ語で、この楽章では、この動機だけ少し厳かに（遅めに）演奏せよということなのだ。

この「運命の動機」は、さまざまに姿を変えながら、後続する3つの楽章でも活用されている。小さな建材（動機）を随所に用いて統一感のある壮大な建物（交響曲）を建てたところに、独創性がある。それともう一つ。この曲全体が、「苦難を通して栄光を得る」というラテン語の格言しながらに展開する点も見逃せない。暗く闘争的な第1楽章から、輝かしい第4楽章へ。その過程には「伏線」も張ってある。

本作は、最初のスケッチから完成まで長く複雑なプロセスを経ているが、1807年に最も集中的に書かれた。

第1楽章 運命の動機が2回鳴って、次に続くのも同動機のリレー。やがてこれまでとは趣を異にするおだやかな曲調になるが、そこでも運命の動機（リズ

10/19

10/22

10/25

ム)を低音弦やティンパニがそつと繰り返している。全体に闘争的なハ短調の音楽が支配的だが、終わりのほうで、栄光の調、ハ長調も顔をのぞかせる。

第2楽章 ゆったりと歌われる変イ長調の歌。ここぞという所で鳴り渡るファンファーレ(運命の動機)はハ長調。この交響曲のゴールとなる栄光の調を、折に触れて予感させようという考えだ。

第3楽章 A・B・Aの3部構成。ホルンの勇ましい信号音は、まぎれもなく運命の動機(ハ短調)。急速な中間部Bに入るとハ長調になるが、それもまたAの部に戻ってしまう。ティンパニのひそやかな連打(ここにも運命の動機!)があり、音楽が明るさを運びながら盛り上がってゆくと…

第4楽章 …そのままハ長調の凱歌へ。栄光が苦難にうち克ったのだ。ピッコロ、コントラファゴット、トロンボーンが初めて加わり、この達成感が強調される。ここにフランス革命(1789年)以降流行した「革命音楽」の影響をみてとる者もいる。やがて運命の動機がまた聞こえてくるが、それもついには凱歌に飲み込まれてゆく。

【作曲年代】1808年 【初演】1808年12月22日 ウィーンのア・デア・ウィーン劇場にて
【楽器編成】ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽5部

ふなき・あつや(音楽評論家)／1967年生まれ。「読売新聞」で音楽評を、Music Birdなどでクラシック音楽番組の案内役を担当。雑誌等でも執筆。東京藝術大学他でドイツ語講師。共著に『魅惑のオペラ・特別版:ニーベルングの指環』(全4巻、小学館)、共訳書に『アドルノ 音楽・メディア論集』(平凡社)。

The 944th Suntory Subscription Concert

Mon. October 19, 2020, 19:00 at Suntory Hall

The 137th Tokyo Opera City Subscription Concert

Thu. October 22, 2020, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 945th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. October 25, 2020, 15:00 at **Bunkamura** Orchard Hall

Min Chung, conductor

Moné Hattori, violon*

Akihiro Miura, concertmaster

Ludwig van Beethoven:

Violin Concerto in D major, Op. 61* (ca. 45 min)

- I. Allegro ma non troppo
- II. Larghetto
- III. Rondo. Allegro

— intermission (ca. 15min) —

Ludwig van Beethoven:

Symphony No. 5 in C minor Op. 67 (ca. 35 min)

- I. Allegro con brio
- II. Andante con moto
- III. Scherzo, Allegro
- IV. Allegro

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Co-presented by Tokyo Opera City Cultural Foundation (Oct 22)

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (Oct 25)



- The conductor and the program have been changed from the original announcement.
- Entering and exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter or reenter in the middle of the concert, we may escort you to a seat different from the one you were originally assigned.
- Please write your name/address/phone number in the permission post card, and post it in the collection box in the lobby before you leave the concert. We would sincerely appreciate your cooperation.

19
Oct

22
Oct

25
Oct

Artists Profile



Min Chung, conductor

Associate Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra

Min Chung is a German-born, France-educated, Korean conductor. At Lycée International Racine in France, he studied literature and music, including contrabass, violin and piano. In 2010, he led the Boystown Symphony Orchestra in an unprecedented performance at the prestigious Carnegie hall in New York. In the same year respectively, two operas at the invitation of the National Opera of Korea: Ravel's "The Child and The Spells," as part of First Opera series; and Puccini's "Madama Butterfly" at an open festival of the An-Dong Art Center.

In 2013, he conducted "La traviata" at Teatro Politeama Greco in Lecce, Italy and he made the debut in Europe with a great success and got offer in the next Verdi's "Don Carlo" immediately after performance (He conducted same opera in Seoul in 2014). Min Chung conducted 14 performances of Mozart "Magic Flute" for Children with Teatro alla Scala academy orchestra between 2015 and 2016. He conducted Puccini's "Madama Butterfly" at Mariinsky Theatre in 2016 and conducted Donizetti's "L'elisir d'amore" at Teatro Massimo, Italy in 2018.

He joined the Japan tour of Haydn Orchestra of Borzano and Trento in June 2019, and made his debut for the subscription concerts of the Tokyo Phil in the same month and Vietnam National Symphony Orchestra in the following September.

19
Oct

22
Oct

25
Oct



©Chihako Ishii

Moné Hattori, violin

Born in Tokyo in September 1999, Hattori grew up a family of musicians, with three generations of successful composers on her father's side. Since the age of eight, she has been enrolled in Zakhar Bron's prestigious Academy in Switzerland. Currently, Hattori is enjoying her time as a student at the Toho Gakuen School of Music, Tokyo.

Hattori is the Grand Prix at five international violin competitions, often as the youngest winner on record. Aged ten, she became the youngest ever winner of the 11th International Competition for Young Violinists in Honour of Karol Lipinski & Henryk Wieniawski in Poland, also taking First Prize at the All Japan Art Association Competition that same year. She went on to win the Grand Prix and various special prizes at the 9th International Competition 'Young Virtuosos' in Bulgaria, and the 7th Novosibirsk International Violin Competition (Senior Division) in Russia. Most recently, Hattori won the Grand Prix at the inaugural International Boris Goldstein Violin Competition in Bern, Switzerland. In 2020, she was awarded a Career Grant from New York's Salon de Virtuosi.

19
Oct22
Oct25
Oct

Program Notes

Ludwig van Beethoven (1770-1827)

Violin Concerto in D major, Op. 61

by Max Derrickson

Beethoven's life was often chaotic and he experienced more than his share of hardship and struggles, both self-made and otherwise. But it was the grave impact of losing his hearing in his 30's that was heartbreaking enough to nearly ruin him. All of this makes his Violin Concerto of 1806 even more extraordinary, composed in the dark shadows of his encroaching deafness. One might expect fire and vengeance, at least fury, as the expression of Beethoven's frustration. Instead, it reflects a composer who was compassionate, witty, deeply humane, and understanding of life's whispered joys. His Violin Concerto is one of the lengthiest concertos written by any composer. Yet, remarkably, it is also one of the quietest, crafted with serenity, and as lyrical as anything Beethoven ever composed. Often, when the music reaches a dramatic moment, it is both pastoral and vast.

The Violin Concerto is a work filled with unexpected strokes of genius, the first being its magnificently unexpected opening. As the musicologist Donald Francis Tovey said:

"One might be inclined to say off-hand that the most mysterious stroke of genius in the whole work is the famous opening with five strokes of the drum which introduces the peculiarly radiant first subject on the wood-wind...."

Another of the more wonderful surprises occurs shortly after that "genius" opening – though the piece begins in D Major, after the second phrase the violins then play a D-sharp. This note is unrelated to the key of the work, or to the preceding phrase, or even to what is to follow, and yet Beethoven has it placed in such a way that it seems the most natural note in the whole Concerto. It's one of the many delights of a masterpiece brimming with delicate surprises.

The second movement, *Larghetto*, is a radiant and sentimental set of variations. Beethoven seems to have reached the sublime with its unpretentious hymn-like beginning. Surely, the longing theme in its center is one of Beethoven's most poignant melodies. It ends with a luxurious set of chords that slip without a pause into the third movement *Rondo*. This final movement is a dance and opens with a reserve that seems to respect the intimacy that preceded it, but, measure-by-measure, it gathers exuberance and joyfulness. About midway through the movement, the orchestra is almost giddily drunk in a dialogue with the soloist. Although as a *Finale* it doesn't wander too far from the *Concerto's* overall tranquillity, it indeed brings some charming twists of energy and off-beat rhythms.

The concerto was premiered by 26-year-old Franz Clement in December, 1806, who according to concert lore was sight-reading most of the performance because the music had not been finished in time for him to practice it. It resulted in a poor reception and the *Concerto* languished for several decades. Its remarkable revival in 1844 came at the hands of a 12-year-old violin prodigy, Joseph Joachim, and the London Philharmonic Society conducted by Felix Mendelssohn. Since then, Beethoven's masterpiece has remained one of the great achievements in Western music. But for any soloist in this extraordinary *Concerto* – a great performance can only come from the hands of a soulful virtuoso.

Work composed: 1806 **World premiere:** December 23, 1806 at Theater an der Wien in Vienna with Franz Clement as the soloist
Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, timpani, strings, solo violin

Max Derrickson is a former timpanist, percussionist and teacher from the Washington, DC/Baltimore area where he performed for much of his career. He holds a Masters of Performance degree from the Peabody Conservatory of the Johns Hopkins University in Maryland, USA. He began writing program notes for orchestras in the early 1990's and his notes have appeared with many orchestras in the US, and around the world, including the Baltimore Opera, the Israel Philharmonic, and now the Hong Kong Philharmonic. He now lives in Portugal and maintains an active social media presence writing about music.

19
Oct22
Oct25
Oct

Ludwig van Beethoven (1770-1827) Symphony No. 5 in C minor op. 67

by April L. Racana

Beethoven was renowned beyond his musical capabilities it seems, with a number of eccentric routines, one of which was to carry around a pocket sketchbook, or perhaps even just a folded piece of manuscript paper, to jot down even the briefest ideas that occurred to him throughout his day. For many years, these sketchbooks were considered just part of his eccentricity. However, scholars have come to learn a great deal about how the kernels of ideas of a great many compositions developed.

Considered by many to be one of the most recognizable symphonic works worldwide, first glimpses of material from the first and third movements of the Fifth Symphony can be found in sketchbooks from about 1804. These were developed further in 1806 with ideas for the remaining movements now appearing, and final details worked out while at the same time composing the Sixth Symphony. Beethoven was quite particular about numbering his works in the order of composition, but apparently even he had difficulty discerning which of these two symphonies developed first. At the first performance of both of these works, the numbering was switched in the program, the composer himself labeling what is now called the Fifth the Sixth, and vice versa.

This so-called premiere was actually the result of the many charity performances Beethoven gave, the benefit of which was to be granted performance space and time in Vienna's Theatre-ander- Wien. Beethoven put together an overwhelmingly long repertoire of new works for this particular performance on December 22nd, 1808, with an orchestra that had been under-rehearsed, and performers who had disputes with the composer. Beethoven pushed the limits of the audience not only in the length of the concert, but also having them listen to so many new pieces, all in the environs of a cold theatre, which meant this now best-loved symphony was received with less than warm regard.

19
Oct

22
Oct

25
Oct

It wasn't until more than a year later that the Fifth Symphony met with a much more positive review, in a journal that had been less than supportive of Beethoven in the past, the *Allegemeine musikalische Zeitung*. The review was written by the writer (and composer) E.T.A. Hoffman and helped create a new attitude among critics toward the composer:

“Radiant beams shoot through the deep night of this region, and we become aware of gigantic shadows which, rocking back and forth, close in on us and destroy all within us except the pain of endless longing – a longing in which every pleasure that rose up amid jubilant tones sinks and succumbs. Only through this pain, which, while consuming but not destroying love, hope, and joy, tries to burst our breasts with a full-voiced general cry from all the passions, do we live on and are captivated beholders of the spirits.”

The depth of motivic development and the range of emotions heard in this symphony forced critics to look much more closely at Beethoven's work. And although Beethoven had assigned meaning to many of his other works, it is as with the man himself, many myths have been conjured to describe the intentions of the composer when writing the Fifth Symphony, most famous of all is his presumed quote “Thus Fate knocks at the door.” This assignment of a fate theme seemed to return when it was ‘discovered’ that the rhythm of the opening theme corresponded to the Morse code for “V”, and consequently drew attention to the work as the “Victory Symphony” during World War II.

Whatever underlying themes one might associate with the passions conjured up in Beethoven's Fifth Symphony, one cannot deny the complete drama the composer created from the opening bars in minor mode of the first movement, to the final closing phrases in a magnificent major mode, triumphantly bringing to a close what has been referred to as: “a demonstration of unification on the very grandest scale to which virtually every composer since has aspired but few have succeeded.” (S. Ledbetter)

19
Oct22
Oct25
Oct

Work composed: 1808 **World premiere:** December 22, 1808 at Theater an der Wien in Vienna

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, contrabassoons, 2 horns, 2 trumpets, 3 trombones, timpani, strings

19
Oct

22
Oct

25
Oct

April L. Racana / As a Music Specialist, Ms. Racana completed her undergraduate studies at the University of Illinois, Champaign-Urbana (BS/Piano Pedagogy) and her graduate studies at San Francisco State University (MA/Music). In addition, she was accepted as part of a post-graduate fellowship at Northwestern University's Bienen School of Music, as well as for the Japan Studies Program at International Christian University. Having been a Music Specialist teaching both in California for nearly a decade, and at Nishimachi International School where she taught for more than 25 years, she feels she has learned as much from her many students as she has taught them over more than three decades, and especially appreciates the opportunity to share her musical insights to an even wider community, as program annotator for the TPO.

Infection Control at Tokyo Phil

In restarting our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



Admission tickets (seat number postcards) are checked without being physically torn and the audience's temperature is checked with a thermography camera.



Seats will be reallocated by social distance. We request that the audience fill out their contact information in the seat number postcards, which we will collect after the concert. The contact information will be kept under lock and incinerated one month after the performance. It will not be used for any purpose other than for quarantine purposes. To avoid congestion in the lobby, we would appreciate it if you could fill out the form before coming to the venue.

In July, Dr. Erisa Sugawara, Professor of Infection Control at Tokyo Health Care University, visited our concert and checked the preventive measures we took at the venue. Her comments were as follows:

We are in the era of "With Corona." To enjoy the orchestra at a concert venue, we have to wear masks throughout the concert, sanitize our hands before entering the building, and keep guests away from each other. Avoidance of the so-called "three densities" and basic infection control are becoming a matter of course for the organizers, the orchestra staff and the guests.

I observed that the Tokyo Philharmonic Orchestra has been working with clients in accordance with the guidelines issued by the government, taking all possible measures to ensure a safe welcome.

Now, there is no "zero risk" anywhere on earth. However, with reliable knowledge and the right behaviors, we can get your happy times back.

I hope you all will enjoy the great music that way.

19
Oct22
Oct25
Oct

Join and celebrate the Tokyo Philharmonic's 2021 fresh start!

Join us for the ultimate concert experience by subscribing to our concert series below. You will enjoy the best seats at the best price, priority purchase status, and the flexibility of free ticket exchanges within the same month all season long. For details, please access our website! <https://www.tpo.or.jp/en>

*Note: Tokyo opera city concert hall will be closed till the end of April 2021 because of its renewal.

January

Fri Jan 22, 19:00 at Suntory Hall

Sun Jan 24, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Andrea Battistoni

Ravel:

Daphnis et Chloe Suite No. 1,
"Fragments symphoniques"
Daphnis et Chloe Suite No. 2,
"Fragments symphoniques"

Stravinsky: The Firebird Suite
(1919 version)

February

Sun Feb 21, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Wed Feb 24, 19:00 at Suntory Hall

conductor: Myung-Whun Chung
and more

Mahler:

Symphony No. 2 in C minor,
"Resurrection"

March

Fri Mar 12, 19:00 at Suntory Hall

Sun Mar 14, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Mikhail Pletnev

Smetana: *Má Vlast*

No. 1. Vysehrad (The High Castle)
No. 2. Vltava (Moldau)
No. 3. Sarka
No. 4. Z českých luhů a hájů
(From Bohemia's Woods and Fields)
No. 5. Tabor
No. 6. Blaník

May

Wed May 12, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Thu May 13, 19:00 at Suntory Hall

Sun May 16, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Andrea Battistoni

Piazzolla:

Sinfonia Buenos Aires, Op. 15
(Japan Premiere)

Prokofiev:

Excerpts from ballet *Romeo and Juliet*

June

Thu Jun 17, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri Jun 18, 19:00 at Suntory Hall

Sun Jun 20, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Tadaaki Otaka
piano: Ayako Uehara

Rachmaninov:
Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43
Symphony No. 2 in E minor, Op. 27

July

Thu Jul 1, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri Jul 2, 19:00 at Suntory Hall

Sun Jul 4, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Myung-Whun Chung

Brahms:
Symphony No. 1 in C minor, Op. 68
Symphony No. 2 in D major, Op. 73

19
Oct22
Oct25
Oct**September**

Thu Sep 16, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri Sep 17, 19:00 at Suntory Hall

Sun Sep 19, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor: Myung-Whun Chung

Brahms:
Symphony No. 3 in F major, Op. 90
Symphony No. 4 in E minor, Op. 98

November

Mon Nov 1, 19:00 at Suntory Hall

Wed/Holiday Nov 3, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Thu Nov 4, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

conductor: Andrea Battistoni
flute: Tommaso Benciolini

Battistoni:
Flute Concerto "*The Garden of Delights*"
(Japan Premiere)

Tchaikovsky :
Symphony No. 5 in E minor, Op. 64

東京フィル 2021シーズン ラインナップ発表!

新しい景色をみたい

In Search of a New Scene

東京フィルの2021シーズンの定期演奏会のテーマは「新しい景色をみたい」。そこには、コロナ禍というかつてない状況下において、「夢や希望を感じる楽曲を存分に楽しむことで、芸術を日常に取り戻してほしい」との思いが込められている。

中でも1月の『火の鳥』すなわち「不死鳥」、2月の『復活』は、オーケストラと聴衆双方にとって意義深い決意表明となる。そしていま多くの人に喜びを与えるのは“高揚感”であろう。全8回の定期演奏会では、ポストを持つ4人の強力指揮者陣が、パッショネイトな快作や濃密な名作を聴かせ、無類の高揚感を与えてくれる。

ここは未曾有の経験を経て組まれた特別なプログラムを1年通して鑑賞し、新たな発見と改めて実感するオーケストラ生体験の歓びを重ねていきたい。

1月は**首席指揮者**アンドレア・バッティストーニが、ラヴェル『ダフニスとクロエ』とストラヴィンスキー『火の鳥』の組曲を披露。“管弦楽法の達人”による両バレエ曲は、組曲＝オーケストラ作品としてより輝いている。ここでは鮮烈な色彩感とバッティストーニ一流の躍動感を満喫したい。

2月は**名誉音楽監督**チョン・ミョンフンによるマーラーの交響曲第2番『復活』。「必ず蘇る」と歌われる同曲は、世界のオーケストラにより特別な節目に取り上げられてきた作品でもある。今回は前記の意味と併せて、マエストロのポスト就任20周年を期しての演奏。2001年にこの曲の圧倒的熱演で始まった長きコンビゆえの深遠な音楽が、新たな金字塔を打ち立てる。

3月は**特別客演指揮者**ミハイル・プレトニョフによるスメタナの『わが祖国』全曲。チェコの風物を描いたこの連作交響詩を、独自の視点で名曲を斬る天才がいかに表出するのか？ 彼自身「政権から弾圧を受けた時に、命を賭して己の芸術にかけろ心意気を示した」と語る同曲は、2度延期した後にも復活を期待された特別な演目だけに期待は大!

5月、永遠の愛をテーマとしたプロコフィエフの『ロメオとジュリエット』は、パッティストーニの生地ヴェローナを舞台にした作品。ダイナミックかつ精妙な同曲では、彼の雄弁な語り口が最上の効果を発揮する。また、生誕100周年を迎えるピアソラの「シンフォニア・ブエノスアイレス」は、エネルギッシュでシンフォニックな本格作。2台の「バンドネオン」を加えた日本初演は必聴だ。

6月は桂冠指揮者 尾高忠明が振るラフマニノフ・プログラム。尾高は同作曲家の作品、特に今回の交響曲第2番を得意としている。いまや円熟の大家たる彼が、関係の深い東京フィルで紡ぐ今回は、濃厚なロシアン・ロマンと格調の高さを兼備した名演が期待される。さらに「バガニーニの主題による狂詩曲」は、ソリストの上原彩子がチャイコフスキー・コンクール優勝時の本選で演奏し、飛躍の契機をなした作品。成熟味を増した独奏も聞き逃せない。

7月と9月はチョン・ミョンフンによるブラームスの交響曲全曲。同作曲家への思い入れが深いマエストロは、2009年東京フィルでの交響曲チクルスでも、ロマンティックな表現で魅了した。それから12年、彼の音楽がさらに内奥に向かっている中で、マエストロのたつての希望で若返りをはかったオーケストラが再びいかなる演奏を生み出すのか? 待望にして注目の2公演だ。

11月はパッティストーニ自身の作曲によるフルート協奏曲『快樂の園』の日本初演を行う。今回も出演のトンマーズ・ベンチョリニとベルリン響によって世界初演された同曲は、画家ヒエロニムス・ボスの絵に拠る4つの音楽画。「ロマン派の交響詩にルーツを持つ」と彼自身語る音楽で、作曲家パッティストーニの定期初登場となる。そしてシンパシー強きロシアの名曲、チャイコフスキーの交響曲第5番。情熱的な曲調と相まって、高揚感MAXのシーズン締めくくりとなる。

文=柴田克彦

2021シーズン ラインナップ発表! ー新しい景色をみたいー

2021年1月に開幕する東京フィルの2021シーズンの定期演奏会ラインナップが決定いたしました。テーマは「**新しい景色をみたい**」。苦難の年を乗り越え、東京フィルが誇るマエストロたちと織りなす空前絶後の1年間、皆様の目前に新しい景色が広がることを願いお届けいたします。発売日等詳細は別紙リーフレット、ウェブサイト等をご覧ください。2021シーズンも皆様のお越しをお待ちしております。

1月 指揮： アンドレア・バッティストーニ (東京フィル首席指揮者) 1月22(金) 19:00 サントリーホール 1月24日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	ラヴェル／ 『ダフニスとクロエ』第1組曲 『ダフニスとクロエ』第2組曲 ストラヴィンスキー／ バレエ組曲『火の鳥』(1919年版)
2月 指揮： チョン・ミョンフン (東京フィル名誉音楽監督) ソプラノ：吉田珠代 メゾ・ソプラノ：加納悦子 合唱：新国立劇場合唱団 2月21日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 2月24日(水) 19:00 サントリーホール	マーラー／ 交響曲第2番 ハ短調『復活』
3月 指揮： ミハイル・プレトニョフ (東京フィル特別客演指揮者) 3月12日(金) 19:00 サントリーホール 3月14日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	スメタナ／ 連作交響詩『わが祖国』(全曲)
5月 指揮： アンドレア・バッティストーニ (東京フィル首席指揮者) 5月12日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 5月13日(木) 19:00 サントリーホール 5月16日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	ピアソラ／ シンフォニア・ブエノスアイレス Op.15 (日本初演) プロコフィエフ／ バレエ音楽『ロメオとジュリエット』より

※東京オペラシティコンサートホールは設備改修工事のため、2021年1月20日(水)から4月30日(金)まで休館となります。

6月 指揮：尾高忠明 (東京フィル桂冠指揮者) ピアノ：上原彩子* 6月17日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 6月18日(金) 19:00 サントリーホール 6月20日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	ラフマニノフ／ パガニーニの主題による 狂詩曲 Op. 43 * 交響曲第2番 ホ短調 Op. 27
7月 指揮：チョン・ミョンフン (東京フィル名誉音楽監督) 7月1日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 7月2日(金) 19:00 サントリーホール 7月4日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	ブ람ス／ 交響曲第1番 ハ短調 Op. 68 交響曲第2番 二長調 Op. 73
9月 指揮：チョン・ミョンフン (東京フィル名誉音楽監督) 9月16日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 9月17日(金) 19:00 サントリーホール 9月19日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	ブ람ス／ 交響曲第3番 ヘ長調 Op. 90 交響曲第4番 ホ短調 Op. 98
11月 指揮：アンドレア・バッティストーニ (東京フィル首席指揮者) フルート：トンマーゾ・ベンチョリーニ* 11月1日(月) 19:00 サントリーホール 11月3日(水・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 11月4日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	バッティストーニ／ フルート協奏曲『快楽の園』*～ボスの絵画 作品によせて(2019)(日本初演) チャイコフスキー／ 交響曲第5番 ホ短調 Op. 64

問合せ 東京フィルチケットサービス

発表日などの詳細は

Tel 03-5353-9522 (平日10時～18時・土日祝日休)

URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)

2021シーズン 午後のコンサート。ラインナップ発表!



イラスト：ハラダチエ

2021シーズンの「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」3シリーズのラインナップを発表いたしました! 今シーズンセット券をご購入いただいたお客様には、一般発売に先立って継続のご案内をお送りいたします。

2021シーズンも、名曲と楽しいお話で充実の午後のひとときをお届けします。

午後のコンサート(渋谷／平日／休日 各シリーズ共通)				
4回セット券	S席	A席	B席	C席
定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
東京フィルフレンズ	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560

※一回券は4回セット券販売後残席ある場合のみ販売いたします。

午後のコンサート4回セット券 発売日	
最優先発売(賛助会員・定期会員)	2021年2/13(土)
優先発売(東京フィルフレンズ会員)	2021年2/20(土)
一般発売	2021年3/11(木)

“大人の渋谷”Bunkamuraで楽しむ 渋谷の午後のコンサート

Bunkamura オーチャードホール

4月21日(水) 第9回

指揮とお話:川瀬賢太郎
ヴァイオリン:千住真理子*



二人は聖火ランナー

ビゼー／歌劇『カルメン』前奏曲
ヴィヴァルディ／『四季』より「春」第1楽章*
チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲より第1楽章*
フツーク／剣士の入場
ベートーヴェン／交響曲第7番より第1楽章、第4楽章

6月9日(水) 第10回

指揮とお話:尾高忠明



名曲には名シーン

フェイン／映画『慕情』より「慕情」
ワーグナー／楽劇『ワルキューレ』より
「ワルキューレの騎行」
スタイナー／映画『風と共に去りぬ』より
「タラのテーマ」
ストラヴィンスキー／バレエ組曲『火の鳥』(1919年版) ほか

9月7日(火) 第11回

指揮とお話:小林研一郎



コパケンのチャイコフスキークライマックス!!

チャイコフスキー／
歌劇『エフゲニー・オネーギン』よりポロネーズ
弦楽セレナードより第1楽章
交響曲第6番『悲愴』より第3楽章
交響曲第5番より第2楽章
交響曲第4番より第4楽章

11月2日(火) 第12回

指揮とお話:
アンドレア・バッティストーニ



バッティストーニの運命

ヴェルディ／歌劇『運命の力』序曲
ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲
ブッチェーニ／歌劇『マノン・レスコー』間奏曲
ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』 ほか

photo: 川瀬賢太郎©Yoshinori Kurosawa 千住真理子©Kiyotaka Saito(SCOPE) 尾高忠明©Takafumi Ueno 小林研一郎©山本倫子 アンドレア・バッティストーニ©Takafumi Ueno

ゆったりと、平日午後に“音楽のご褒美” **平日の午後のコンサート** 東京オペラシティ コンサートホール

5月6日(木) 第21回

指揮とお話:
アンドレア・バッティストーニ



バッティが語る

モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲
ケテルビー／ベルシャの市場にて
ワルトイフェル／スケーターズ・ワルツ
ドヴォルザーク／ユーモレスク
交響曲第8番より第3楽章、第4楽章

ほか

7月27日(火) 第22回

指揮とお話:**尾高忠明**



テンポはマーチ

古関裕而／スポーツショー行進曲
J.F. ワグナー／行進曲「双頭の鷲の旗の下に」
スーザ／行進曲「星条旗よ永遠なれ」
レスピーギ／交響詩『ローマの松』より
「アツピア街道の松」

ほか

10月21日(木) 第23回

指揮とお話:**円光寺雅彦**
ピアノ:**清塚信也***



忘れ難きふるさと

グリーグ／
劇付随音楽『ペール・ギュント』より
「朝～山の魔王の宮殿にて」
ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲*
ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』

photo: アンドレア・バッティストーニ ©Takafumi Ueno 尾高忠明 ©Martin Richardson 円光寺雅彦 ©K.Miura ミツ橋敬子 ©大杉幸平 仲達郁代 ©Kiyotaka Saito (SCOPE)

2022年2月3日(木) 第24回

指揮とお話:**三ツ橋敬子**
ピアノ:**仲達郁代***



夢を語りますか

リスト／ハンガリー狂詩曲第2番
ショパン／アンダンテ・スピアナートと
華麗なる大ガロネーズ*
ハチャトゥリアン／劇音楽『仮面舞踏会』よりワルツ
チャイコフスキー／幻想序曲『ロメオとジュリエット』

元祖!22年目を迎える“ご長寿”シリーズ **休日の午後のコンサート** 東京オペラシティ コンサートホール

6月6日(日) 第88回

指揮とお話:**尾高忠明**



名曲には名シーン

フェイン／映画『慕情』より「慕情」
ワグナー／楽劇『ワルキューレ』より
「ワルキューレの騎行」
スタイナー／映画『風と共に去りぬ』より
「タラのテーマ」
ストラヴィンスキー／バレエ組曲『火の鳥』(1919年版) ほか

9月5日(日) 第89回

指揮とお話:**小林研一郎**



コバケンのチャイコフスキーライマックス!!

チャイコフスキー／弦楽セレナードより第1楽章
バレエ組曲『くるみ割り人形』より
「行進曲～トレバック～花のワルツ」
交響曲第6番『悲愴』より第3楽章
交響曲第5番より第2楽章
交響曲第4番より第4楽章

ほか

11月7日(日) 第90回

指揮とお話:
アンドレア・バッティストーニ



バッティストーニの運命

ヴェルディ／歌劇『運命の力』序曲
ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲
ブッチェーニ／歌劇『マノン・レスコー』間奏曲
ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』

ほか

2022年2月6日(日) 第91回

指揮とお話:**三ツ橋敬子**
ピアノ:**仲達郁代***



テーマは愛

リスト／ハンガリー狂詩曲第2番
ショパン／アンダンテ・スピアナートと
華麗なる大ガロネーズ*
ハチャトゥリアン／劇音楽『仮面舞踏会』よりワルツ
チャイコフスキー／バレエ組曲『白鳥の湖』より

photo: 尾高忠明 ©Martin Richardson 小林研一郎 ©山本倫子 アンドレア・バッティストーニ ©Takafumi Ueno ミツ橋敬子 ©大杉幸平 仲達郁代 ©Kiyotaka Saito (SCOPE)

Photo Reports 2020シーズンのステージより

1月定期演奏会 (1/23,24,26)

指揮：アンドレア・バッティストーニ
(東京フィル首席指揮者)

ピアノ：阪田知樹*

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第3番*

ベルリオーズ／幻想交響曲

写真＝上野隆文



2月定期演奏会 (2/19,21,23)

指揮：チョン・ミョンフン
(東京フィル名誉音楽監督)

カルメン：マリーナ・コンパラート

ドン・ホセ：キム・アルフレード 他

合唱：新国立劇場合唱団、児童合唱：杉並児童合唱団
ビゼー／歌劇『カルメン』(演奏会形式)

写真＝上野隆文



新型コロナウイルス感染症の感染拡大により3月定期演奏会は延期、4月の定期演奏会、4月・6月の「午後のコンサート」は中止となりました。6月定期演奏会より、当初予定の演目・出演者を変更しながらではありますが、お客様をお招きしての公演を再開いたしました。再配席や感染対策など様々なお願いをさせていただきましたが、皆様の深いご理解のもと、チケット払戻の辞退やご寄附、各方面へのオーケストラ支援の呼びかけなどの形で、多大なるお力添えを賜りましたことを心より御礼申し上げます。

6月定期演奏会 (6/21,22,24)

指揮：渡邊一正
(東京フィル レジデント・コンダクター)

ロッシーニ／歌劇『セビリアの理髪師』序曲

ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』

写真＝三浦興一

※当初出演を予定していたミハイル・プレトニョフの来日が不可能になったことにより指揮者・演目を変更して開催しました



7月定期演奏会 (7/15, 17, 19)

指揮：佐渡 裕

ベートーヴェン／

序曲『コリオラン』、交響曲第7番

写真＝上野隆文

※当初出演を予定していたチョン・ミョンフンの来日が不可能になったことにより指揮者・演目を変更して開催しました



「午後のコンサート。」シリーズより

7月2日の「渋谷の午後のコンサート」から、午後のコンサートシリーズも公演を再開。
お客様と出演者の安全を確保しつつ、名曲と楽しいお話をお届けしています。

7月2日(木)

第6回 渋谷の午後のコンサート

〈第2の国歌を知っていますか?〉

指揮とお話：尾高忠明

ピアノ：高木竜馬*

写真＝三好英輔



マエストロ尾高は7月の「休日の午後のコンサート」(7/23)にも登場

8月4日(火)

第19回 平日の午後のコンサート

〈250オのベートーヴェン〉

指揮とお話：小林研一郎

ナビゲーター：田添菜穂子

ベートーヴェン／劇音楽『エグモント』序曲、

交響曲第7番 他

写真＝寺司正彦 他

※当初出演を予定していたアンドレア・パッティストーニの来日が不可能になったことにより指揮者・演目を変更して開催しました



マエストロ小林研一郎は、9月の「午後のコンサート」でも、「休日(9/6)」「渋谷(9/8)」で円熟のベートーヴェンと楽しいお話を聴かせてくれました



9月定期演奏会 (9/25, 27, 29)

指揮：渡邊一正

(東京フィルレジデント・コンダクター)

ドヴォルザーク／

序曲『謝肉祭』、交響曲第8番

写真＝寺司正彦

※当初出演を予定していたアンドレア・パッティストーニの来日が不可能になったことにより指揮者・演目を変更して開催しました



東京フィル「第九」特別演奏会 開催のご案内

日時・会場 12月18日(金) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
12月19日(土) 19:00開演 サントリーホール
12月20日(日) 15:00開演 Bunkamuraオーチャードホール

出演 指揮：尾高忠明(東京フィル 桂冠指揮者)
ソプラノ：吉田珠代
アルト：中島郁子
テノール：清水徹太郎
バリトン：伊藤貴之
合唱：新国立劇場合唱団



演目 ベートーヴェン／交響曲第9番
二短調 Op. 125『合唱付き』 ほか

※新型コロナウイルス感染対策のため、合唱団に関するガイドラインが改定されないときには専門の音響機器を使用して公演を行います。

ニューイヤーコンサート2021

日時 2021年1月2日(土) 15:00
2021年1月3日(日) 15:00
会場 Bunkamuraオーチャードホール

出演 指揮：三ツ橋敬子
司会：朝岡 聡
ほか、豪華ゲスト調整中



ニューイヤーコンサート2020より



チケット料金など詳細はウェブサイト、ダイレクトメール、各種プレイガイド、SNSなどでご案内いたします。

発売日	最優先(賛助会員・定期会員)	10月31日(土)
	優先(東京フィルフレンズ会員)	11月1日(日)
	一般	11月11日(水)

問合せ 東京フィルチケットサービス 03-5353-9522
(平日10時～18時／発売日10時～16時)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>

東京フィルメンバーの活動より ―

オーボエ首席奏者 加瀬孝宏のソロCD
『エモーショナル・オーボエ』が発売されました。

「僕自身2枚目のアルバムが9月30日に発売となりました。『エモーショナル・オーボエ』というタイトル通り、心揺さぶられるような楽曲を集めてみました。是非お聴きください!」

出演 加瀬孝宏(オーボエ、東京フィルハーモニー交響楽団首席)
大野真由子(ピアノ、東京藝術大学講師)
神田勇哉(フルート、東京フィルハーモニー交響楽団首席)
曲目 ドリング：フルート、オーボエ、ピアノのためのトリオ
ドヴォルザーク：ソナチネop100 ほか
価格 3,300円(税込)
品番 ティートックレコーズ[TTOC0043]



PARADISE CASINO

Win Your Day
PARADISE
WALKERHILL

03-5114-6680

演奏会場の感染対策について

演奏会の再開にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大予防のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。 写真＝三浦興一



入場前の手指消毒、間をあけて整列のお願い



入場券(座席番号はがき)の目視確認と、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています



ソーシャルディスタンスによる再配席を行い、入場券(座席番号はがき)にご来場者様の連絡先を記入いただき、終演後に回収しております。ご連絡先は公演後1か月間、厳重に保管の後、焼却処分いたします。防疫上の目的以外には使用いたしません。

ロビーの混雑を避けるため、ご来場前にご記入をいただけますと幸いです。

7月定期演奏会では、東京医療保健大学 感染制御学教授 菅原えりさ先生にご来場いただき、会場の対策についてご視察をいただきました。菅原先生のコメントをご紹介します。

「Withコロナの時代。演奏会場でオーケストラを楽しむために、マスク着用の徹底、入館時の手指消毒、お客様同士距離を置く対策。いわゆる「3密」回避と基本的感染対策は、主催者も、楽団員スタッフも、そして、お客様も、当たり前のことになってきています。東京フィルは、政府が発出したガイドラインを元に、お客様を安全にお迎えするため、できる限りの対策を講じております。

今、地球上どこにも「ゼロリスク」はありません。しかし、信頼できる知識を得、適切な行動を取れば、幸せな時間を取り戻すことはできます。

どうぞ皆さま、素晴らしい音楽をお楽しみください。」(菅原)

ご支援の御礼とお願い

今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2月下旬より東京フィルが出演する演奏会の全てが中止・延期となりました。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。そのような中、たくさんの励ましのお言葉とともに、中止公演のチケット払戻し辞退によるご寄附や、銀行振込等による温かいご支援をいただきました。心よりお礼申し上げます。

今後の演奏会も、感染症拡大防止の観点から、当面の間はチケットの販売数等、規模を縮小しての開催が見込まれております。

皆様のご寄附が大きな力となります。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけますと幸いです。1万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（本冊子35ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行 (郵便振替)	00120-2-30370	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	

※ 寄附金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入して、下記送付先へご送付ください。寄附申込書の書式については、下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。

寄附申込書のダウンロードはこちらから

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【寄附申込書 送付先／お問合せ】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521 (土日祝日を除く10時～18時)

紅葉の候、時下いっそうご壮健のこととお喜び申し上げます。
 日々深まる美しい季節に思いを馳せられるような、
 雄大な響きをお楽しみください。
 引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史



賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、
 法人並びに個人(パートナー会員)の皆様のご寄附により支えていただいております。
 ここにそのご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー (敬称略)

ソニー株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員 (五十音順・敬称略)

(株)IHI	代表取締役社長 井出 博	(株)インターテキスト	代表取締役 海野 裕
(株)アイエムエス	取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株)	代表取締役社長 片野坂 真哉
相澤内科医院	理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ	代表取締役社長 安齋 尚志
アイシステム(株)	代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	桜美林大学	総長 佐藤 東洋士
(株)アシックス	代表取締役会長CEO 尾山 基	大塚化学(株)	特別相談役 大塚 雄二郎

(株) オーディオテクニカ	代表取締役社長	松下 和雄
(公財) オリックス宮内財団	代表理事	宮内 義彦
花王(株)	代表取締役 社長執行役員	澤田 道隆
カシオ計算機(株)	代表取締役社長	樫尾 和宏
キャノン(株)	代表取締役会長兼社長 CEO	御手洗 富士夫
(株) グリーンハウス	代表取締役社長	田沼 千秋
(株) ケイブ	取締役会長	高野 健一
(医) 浩仁会 矢田眼科医院	理事長	矢田 浩二
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之
新興和製薬(株)	代表取締役	田中 めぐみ
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛
(株) J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准
(株) 滋慶	代表取締役社長	田仲 豊徳
(株) ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己
ジューテックホールディングス(株)	代表取締役会長	足立 建一郎
菅波楽器(株)	代表取締役社長	菅波 康郎
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉
ソニー(株)	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男
(株) ソニーミュージックエンタテインメント	代表取締役社長CEO	村松 俊亮
(株) 大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	澤田 太郎
高砂熱学工業(株)	代表取締役社長	小島 和人
(株) タクト	代表取締役	苗代 政治
都築学園グループ	総長	都築 仁子

(株) テクノスジャパン	代表取締役社長	吉岡 隆
東急(株)	取締役社長	高橋 和夫
東京オペラシティビル(株)	代表取締役社長	三和 千之
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣
トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一
トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
(株) ニチケアパレス	代表取締役	齊藤 正俊
(株) ニフコ	代表取締役社長	山本 利行
日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
(株) パラダイスインターナショナル	代表取締役	新井 秀之
富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株) 不二家	代表取締役社長	河村 宣行
(株) プライムステーション	代表取締役	浅田 亨
丸紅(株)	取締役会長	國分 文也
(株) 三井住友銀行	頭取CEO	高島 誠
三菱商事(株)	代表取締役社長	垣内 威彦
三菱倉庫(株)	相談役	宮崎 毅
(株) 三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
(株) 明治	代表取締役社長	松田 克也
森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
(株) 山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
楽天(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
(株) リソー教育	取締役会長	岩佐 実次

後援会員

欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄
(有) オルテンシア	代表取締役	雨宮 睦美
(医) カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹
(株) 京王エージェンシー	代表取締役社長	岡村 達矢
(医) だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎
(宗) 東京大仏・乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽
(一社) 凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹

(株) 日税ビジネスサービス	代表取締役会長兼社長	吉田 雅俊
富士通(株)	代表取締役社長	時田 隆仁
本田技研工業(株)	代表取締役社長	八郷 隆弘
三菱地所(株)	執行役社長	吉田 淳一
三菱重工業(株)	取締役社長	泉澤 清次
三菱電機(株)	執行役社長	杉山 武史

ご支援のお願い

2020年3月、東京フィルハーモニー交響楽団は創立109年を迎えました。

1月に新シーズン開幕を迎えた東京フィルは、1月から12月までの一年を通じて、皆様の暮らしと共に響きあう音楽をお届けし、心豊かな社会へと繋ぐ役割を担います。また、定期演奏会や「午後のコンサート」、特別演奏会や提携都市公演ほか多様な音楽活動を通して、国際的に活躍する演奏家や将来を嘱望された若手演奏家らと共に様々な作品に取り組み、より広く多くの皆様にオーケストラの価値を認知いただけるよう尽力いたします。そして、日本の芸術文化発展に寄与すべく、多様化するグローバルな社会において文化交流の架け橋となるよう、より一層努めてまいります。

是非とも皆様方からお力添えを賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

ご寄附会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「賛助会デスク」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた} 鹿文)

電話: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から5年間の長期採択を受け(2014～2018年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東・東海地区の小中学校36校、のべ16,000名以上の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。

※留学生招待シート、東日本大震災“とどけ心に”特別招待シートは、当面の間ご案内を停止させていただいております。詳細は次ページをご参照ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「東日本大震災」とどけ心に”特別招待シート”として活用させていただいて参りましたが、このたびの新型コロナウイルス感染症拡大防止策の実施に伴い、当面の間、チケット寄附の運用を見合わせとさせていただくことといたしました。再開となりましたら改めてご案内をさせていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

2020年3月以降の東京フィル定期演奏会／午後のコンサートのチケットの払戻を辞退することによる東京フィルへのご寄附については、ご希望の方に税控除のための確定申告用の書類（寄附領収証書・税額控除に係る証明書）をお送りしております。税控除に関する詳細は東京フィル事務局・寄附担当 partner@tpo.or.jp までお問合せください。

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【お問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521（平日10時～18時）

Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バティストニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>



©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

レジデント・コンダクター
Resident Conductor

渡邊 一正
Kazumasa Watanabe

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

柄本 三津子☆
Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

山内 祐子☆
Yuko Yamanouchi

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

黒沢 誠登
Makoto Kurosawa

佐藤 実江子
Mieko Sato

高木 祐香
Yuuka Takagi

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ
Cellos

金木 博幸◎
Hiroyuki Kanaki
服部 誠◎
Makoto Hattori
渡邊 辰紀◎
Tatsuki Watanabe
高麗 正史☆
Masashi Korai
石川 剛
Go Ishikawa
大内 麻央
Mao Ouchi
太田 徹
Tetsu Ota
菊池 武英
Takehide Kikuchi
佐々木 良伸
Yoshinobu Sasaki
長谷川 陽子
Yoko Hasegawa
渡邊 文月
Fuzuki Watanabe

コントラバス
Contrabasses

片岡 夢児◎
Yumeji Kataoka
黒木 岩寿◎
Iwahisa Kuroki
小笠原 茅乃◎
Kayano Ogasawara
遠藤 柊一郎
Shuichiro Endo
岡本 義輝
Yoshiteru Okamoto
小栗 亮太
Ryota Oguri
熊谷 麻弥
Maya Kumagai
菅原 政彦
Masahiko Sugawara
田邊 朋美
Tomomi Tanabe
中村 元優
Motomasa Nakamura

フルート
Flutes

神田 勇哉◎
Yuya Kanda
斉藤 和志◎
Kazushi Saito
吉岡 アカリ◎
Akari Yoshikoka
さかはし 矢波
Yanami Sakahashi
下払 桐子
Kiriko Shimobara
名雪 裕伸
Hironobu Nayuki

オーボエ
Oboes

荒川 文吉◎
Bunkichi Arakawa
加瀬 孝宏◎
Takahiro Kase
佐竹 正史◎
Masashi Satake
杉本 真木
Maki Sugimoto
三谷 真紀
Maki Mitani
若林 沙弥香
Sayaka Wakabayashi

クラリネット
Clarinets

チョ・スンホ◎
Sungcho Cho
アレッサンドロ・
ベヴェラリ◎
Alessandro Beverari
万行 千秋◎
Chiaki Mangyo
黒尾 文恵
Fumie Kuroo
林 直樹
Naoki Hayashi
ファゴット
Bassoons
チェ・ヨンジン◎
Young-Jin Choe
廣幡 敦子◎
Atsuko Hirohata
井村 裕美
Hiromi Imura
桔川 由美
Yumi Kikkawa
森 純一
Junichi Mori

ホルン
Horns

磯部 保彦◎
Yasuhiro Isobe
齋藤 雄介◎
Yusuke Saito
高橋 臣宜◎
Takanori Takahashi
今井 彰
Akira Imai
大東 周
Shunsuke Kimura
木村 俊介
Shunsuke Kimura
田場 英子
Eiko Taba
塚田 聡
Satoshi Tsukada
豊田 万紀
Maki Toyoda
古野 淳
Jun Furuno
山内 研自
Kenji Yamanouchi
山本 友宏
Tomohiro Yamamoto

トランペット
Trumpets

川田 修一◎
Shuichi Kawata
野田 亮◎
Ryo Noda
古田 俊博◎
Toshihiro Furuta
重井 吉彦
Yoshihiko Shigei
杉山 眞彦
Masahiko Sugiyama
前田 寛人
Hirohito Maeda

トロンボーン
Trombones

五箇 正明◎
Masaki Goka
中西 和泉◎
Izumi Nakanishi
辻 姫子◎
Himeko Tsuji
石川 浩
Hiroshi Ishikawa
平田 慎
Shin Hirata
山内 正博
Masahiro Yamauchi

テューバ
Tubas

大塚 哲也
Tetsuya Otsuka
荻野 晋
Shin Ogino

ティンパニ&
パーカッション
Timpani & Percussion

岡部 亮登◎
Ryoto Okabe
塩田 拓郎◎
Takuro Shiota
高野 和彦◎
Kazuhiro Takano
木村 達志
Tatsushi Kimura
鷹羽 香緒里
Kaori Takaba
縄田 喜久子
Kikuko Nawata
船迫 優子
Yuko Funasako
古谷 はるみ
Harumi Furuya

ハープ
Harps

梶 彩乃
Ayano Kaji
田島 緑
Midori Tajima
宮原 真弓
Mayumi Miyahara

ライブラリアン
Librarians

武田 基樹
Motoki Takeda

ステージマネージャー
Stage Managers

稲岡 宏司
Hiroshi Inaoka
大田 淳志
Atsushi Ota
古谷 寛
Hiroshi Furuya

◎首席奏者
Principal

○副首席奏者
Assistant Principal

☆フォアシュペラー
Vorspieler

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
	篠澤 恭助		鈴木 啓介
専務理事	田沼 千秋		瀬谷 博道
石丸 恭一	寺田 琢		日枝 久
	遠山 敦子		南 直哉
常務理事	野本 弘文		
工藤 真実	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	岡部 純	河野 啓子	佐野 恭一	長池 陽次郎	細洞 寛
池田 敏美	小樽 敦子	近藤 勉	清水 真佐子	長岡 愼	本田 詩子
糸井 正博	小山 智子	今野 芳雄	瀬尾 勝保	長倉 穰司	松澤 久美子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	齊藤 匠	高岩 紀子	新田 清枝	湊 貞男
岩崎 龍彦	加藤 明広	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	山屋 房子
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 正雄	竹林 良	野仲 啓之助	吉田 啓義
上野 真行	金崎 真由美	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	玻名城 昌子	米倉 浩喜
生方 正好	川人 洋二	桜木 弘子	田中 千枝	福村 忠雄	脇屋 俊介
大兼久 輝宴	木村 友博	笹 翠	田村 武雄	藤原 勲	
大和田 皓	黒川 正三	佐々木 等	戸坂 恭毅	細川 克己	

〈発行日〉 2020(令和2)年10月19日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 欧文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

